

再編進む労働戦線 —化学— 2面  
社説 進もう人民と共に 3面  
特集 生活の場から闘う大衆 4・5面  
国際 聞け77年を創る人民の足音 8面

# 人民新聞

1977年 1月5日  
通巻第275号  
1部 100円  
5、15、25日発行  
半年間 2000円(送料共)  
振替口座 大阪 88555

昭和43年12月12日第三種  
郵便物認可  
発行所 人民新聞社  
本社 大阪市北区池田町  
21番 安田ビル2階  
電話 06(358) 4376  
(351) 9436  
東京多摩支局 立川市柴  
崎町3-6-3 風林舎内  
電話0425(22) 5429



## 人民新聞で取扱中

### パレスチナ幻の国境

広河隆一 著

パレスチナ国家の誕生が日程にのぼってきたが、それはパレスチナ問題を解決するうえで、どのような意味を持つのか?……現地からの最新報告  
東京都渋谷区神宮前四一四一〇、草思社発行、人民新聞社で取扱中。

価一、三〇〇円千一六〇円 草思社刊

## 四季書房新刊書

### ある教師の苦渋の回想

—米騒動から勤評まで—

磯田雄著

日高六郎(社会学者) 戦前、戦中、戦後を誠実に生き、た一教師の自伝を讀んで、私は一貫して人生を歩むことのさややかに胸をうたれた。軍歌をうたっていた子供のころの思い出も当時の日本をうたっていた、興味深い。学生時代、社会の矛盾にめきめ、左翼運動へはいつてゆく。以後、戦中、戦後をうらめいて、一教師として、まっすぐにたたかいてゆく。そのなかで、多くの人々の運動の美しさとともにくさみをみる。自分を語り、時代を語るこの自伝は、なによりも、生きるというこの意味を私達に教えてくれる。

B6版二五〇頁、千円千二五〇円 四季書房発行、人民新聞社で取扱中

## 四季書房 既刊書

### 日本社会主義 改造計画案

朝川信昭著

小田実・これは面白い本だ。そしてためになる本だ。近頃これほど面白く読んだ本はない。  
山川暁夫・生産力第一主義にたつ文明の二コベルニクスの転換を呼びかける。

破局をのりきり、人間らしく生きるためにノ

## 交流

155号 300円

1976年 12月30日発行

新しい年を迎えて…『交流』編集委員会  
総選挙後の高教組の動向……井村恒平  
資料 選挙の結果を見る限  
山下裁判闘争の展望について……高野嘉雄  
危機に立つ定時制教育……木村正雄  
思い出(18) 勤評闘争……秋山吉吉  
〈原稿通書〉 密着政治で決まる 一野金・美沢文  
〈市販通書〉 選挙雄辯……高橋  
〈紙上討論〉 全日制普通高校における  
解放教育」を讀んで……あべしでお・ほか

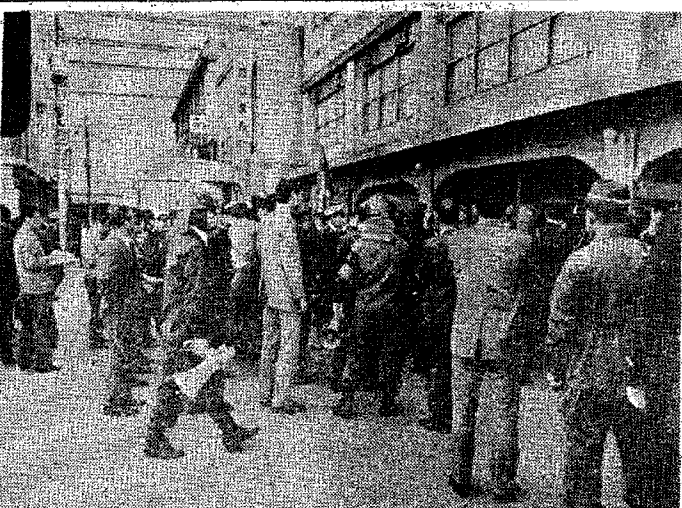
神戸市中央区旭通5丁目15-2カネキビル401  
兵庫県労働運動交流会編集発行電話078  
・252・0962 人民新聞社で取扱中

# 化学の再編進む

## JACCが発足 裏に企業の多国籍化

この二、三年の間に、石油などの加盟、反共主義を旗印として、石油の供給を確保しようとする石油の多国籍化が進んでいる。石油の多国籍化とは、石油の供給を確保しようとする石油の多国籍化が進んでいる。石油の多国籍化とは、石油の供給を確保しようとする石油の多国籍化が進んでいる。

石油の多国籍化とは、石油の供給を確保しようとする石油の多国籍化が進んでいる。石油の多国籍化とは、石油の供給を確保しようとする石油の多国籍化が進んでいる。石油の多国籍化とは、石油の供給を確保しようとする石油の多国籍化が進んでいる。



11月27日臨時のビゲにおおぞかだった警察

## 全政治犯釈放を 韓国人民連帯集会

【大田三・一民主義青年会】韓国人民連帯集会が開かれ、全政治犯の釈放を要求する集会が行われた。集会には多くの参加者が集まり、韓国人民の自由と民主主義を叫び、全政治犯の即時釈放を強く求めた。

## 合理化失敗で弾圧 人減しに抵抗し採用獲得

全 臨 労

【東京一〇二】二十七日、朝日新聞社に於ける全臨時労働組合のビゲットに対して警察が弾圧を加えた。この弾圧は、労働組合の活動を抑え、合理化を進めようとする経営側の意図が窺われる。労働組合は、弾圧に抵抗し、人権の擁護と採用の獲得を訴えている。

## 島根県職 確定闘争転末記

十一月二十七日九時半知事との交渉、最後まで闘い、交渉は決裂した。島根県職員は、給与改善と労働条件の向上を求め、確定闘争を繰り出した。交渉は数回行われたが、双方の譲歩がなかったため、最終的に交渉は決裂し、労働組合は闘争を継続する意向を示している。

## 庁舎に機動隊導入 抗議集会すらしない組合

【大田三・一民主義青年会】島根県庁舎に機動隊が導入された。労働組合は、この措置に抗議したが、抗議集会すら行わず、静かに闘争を続けている。組合側は、機動隊の導入が労働者の安全と権利を脅かすとして、静かなる闘争を継続する方針を固めている。

十一月二十七日九時半知事との交渉、最後まで闘い、交渉は決裂した。島根県職員は、給与改善と労働条件の向上を求め、確定闘争を繰り出した。交渉は数回行われたが、双方の譲歩がなかったため、最終的に交渉は決裂し、労働組合は闘争を継続する意向を示している。

総評青年部に結集する市職・市職、駐韓米軍の撤退を公約した。この公約は、労働者の権利と平和の追求を示す重要なメッセージである。市職連合会は、この公約を支持し、労働者の権利の擁護と平和の実現を強く求める。

「暗い夜、肌さす風を思ひ、握りしめた拳の中、ふつと湧き出る熱い力を知る。抑えきれぬ怒りは、次から次へと燃え上がる。そして、再び抑えきれぬ怒りは、次から次へと燃え上がる。」

### 闘いにまにあう印刷

《ビラ・雑誌・パンフ・ステッカー・ポスター》  
特急OK・代金は相談  
**人民新聞社印刷部**  
☎ 358-4376

十一月二十七日九時半知事との交渉、最後まで闘い、交渉は決裂した。島根県職員は、給与改善と労働条件の向上を求め、確定闘争を繰り出した。交渉は数回行われたが、双方の譲歩がなかったため、最終的に交渉は決裂し、労働組合は闘争を継続する意向を示している。

米、M作戦で逮捕され、鳥刑に拘留されて、いた近藤有司君は、三年三月月にわたる拘留生活の中で、立ち上ることも出来なくなる程、肉体を破壊され、現在闘病生活を余儀なくされています。しかし、鳥刑は彼の肉体を破壊はしても、彼の燃えるような精神は破壊することとは出来ませんでした。近藤有司君は、激化する監獄内弾圧と闘う為に、國賠闘争を奈良地裁で始めました。この國賠闘争が、一月十三日代理人松本健男弁護士らによって、鳥刑監房の現場検証として開われます。この現場検証に呼応して、一・一二對鳥刑闘争を行います。

監房は、夏は蒸し風呂、冬は身も凍る冷凍庫と化します。この中で栄養失調で今にも崩れ落ちそうな身体にむち打って獄中者は闘い続いています。日常的に暴行を受けているであろう彼らの姿を、決って忘れてはなりません。かつて、「獄原病」という言葉が使用されました。しかし考えても見ようか、時として冬はマイナス零度以下、夏は三〇度を越し、湿気蒸し風呂のようになる所、一ヶ月間は当然のように殴打、薄暗な中で身体を破壊されない人間に、権力の意志によって加えられた肉體破壊の別名です。

私達は、今回の對鳥刑闘争を中で闘う全ての人々への連帯として、あらゆる弾圧をはねのけ貫徹する決意です。人民新聞読者の皆さん、私達と共に闘おうではありませんか。徹寒の冬の鳥取へ関西から闘う炎に燃えた部隊を出そうではありませんか。

☆獄中者への弾圧を止めよう  
☆未決長期拘留者を即時釈放せよ  
☆一月十三日午前九時鳥刑門前へ結集せよ

詳細は関西救援連絡センターまで  
三三七・一〇七九(センター)

②については、日本社会で生活して行く限り二世・三世の意識が日本化して行くことは必然であ

ならない施設だが、プルトニウムを使う原子炉は商業炉として開発されていない。そこで世界中にプルトニウムは溜れている。プルトニウムから原子爆弾を作ることができる。日本の支配階級が経済性の悪く安全性のない再処理工場を建設しようとする動機にすぎめてゐる本当の理由はここにある。経済性もプルトニウムを軍事用として賣上げることもなければ支配階級にとって問題解決だ。

特に米國にカスター政権出現となれば、核拡散防止をめざして厳しい國際管理体制を打出してゐるのでは目になえており、日本の支配階級はこの制約から逃れるため再処理施設を何とか

政治が反動化するならば、支配階級は核武装へ突き進む。その時再処理工場建設に着手するにちがいない。日本の南には孤島徳之島の住民はいまほど本土の政治の移り変りをも、あつていまして真剣にたづねている時はない。彼等は北のはての奥尻、第三の候補地と目されている青森県の陸奥（むつ）の住民との連絡を求めている。(c)

取刑務所糾弾へ



都営バス  
地下鉄

アップ率は四一・五％で、昨年の水産料金の「倍増」に次ぐ美濃部革新市政の都民への贈物だ。

さらに重大なのは都職員定年制実施の突破口に、当局が打診した五十才勸奨退職制度である。十新年前の路面電車廃止に伴う要員吸収で都交通局の平均年令は高い。この不況と物価高の中で仮りに年給がついたとしても、多くの労働者が生活の先行不安を抱えている中で、実質解雇に近い定年令切下げは東交労働者の最大関心事といえる。

これらの合理化によって、現在でもほとんど定員増が行われず、目一杯の労働を強いられている各駅では、最低人員による緊張が高まり、清掃が下請化されて安全確保のためのゆとりある駅務ができなくなると強い反発が出てい

いる。自分たちが労働者でなく、二割方の人員削減になるのだが、

東交は合理化に次ぐ合理化で、次々に敗北し、路面廃止で先頭を切って闊けた者が解雇される（一九八九年）など、闊ったものが恵まれない実状が多すぎる。組合本部が本気になって闘うなら、皆ついていくという気持はあるのだが、と今一つ盛上らない職場の状況を語っている。

青年部のBさん（三六）は「一回の値上げ反対では、本部も支持して都議会に壓り込んで、都民共感を得ようと本気で闘った。今回は、交通局がつぶれたらどうなるか」という当局の宣伝も行届いておらず、日労と同じ構造で年末一時金で値上げ黙認を本部が取り引きし、実際に一時金が支給されてしま

と、それでも闘うという労働者の少い。今回の合理化で、各駅と

二割方の人員削減になるのだが

A grainy, black and white photograph showing a group of people, some in uniform, gathered in front of a building with a sign that reads "FEDERAL BUREAU OF INVESTIGATION". The scene appears to be outdoors, possibly during a protest or a public gathering. The image is somewhat blurry and has a high-contrast, halftone-like texture.

厳しい合理化攻撃の渦中にある東交労働者

十一月二十二日、美濃部知事が三副知事をひきつれて東交本部にのりこみ、合理化が進展しなければ交通局は自滅するしかないとして金支払い保留をほのめかして脅迫し交渉のテーブルにつくよう強く迫った。

賣交支部は、この「一時金を人  
賣」にした国労方式の取引きに屈  
して値上げを黙認し、合理化案  
について一月末をメドに条件闘  
争に転じ、十二月九日に予定され  
ていた半月ストを延期し、闘う労

This political cartoon, titled "CIA" (社公民路線), features several caricatures of prominent Japanese politicians. The central figure, resembling Prime Minister Kakuei Tanaka, is depicted in a state of extreme stress or aggression, with his mouth wide open as if shouting or screaming. He is surrounded by other figures, some of whom appear to be in conflict or distress. A speech bubble from one figure reads: "世界は7大陸の争い、地球は勝ち負けのもの、アジアは自衛隊の力だ!" (The world is a struggle of seven continents, Earth is something of victory and defeat, Asia is the power of the Self-Defense Forces!). Another speech bubble says: "こゝろ、金更何金、ならん死ぬに、おそれかな?" (Mind, money, more money, doesn't it mean death, no fear?). The cartoon is signed "FUKUDA SHIGEO" at the bottom right.

1977ぶきみな予感 東 迅一

働者に深い絶望感を与えた。高度成長の上に築かれた地域支配の妥協の形態として産まれた「革新自治体」なるものが、資本主義の矛盾を都市問題として押しつける限り、誰が知事になっても問題を解決することにはできない。むしろ、自治体財政の危機を革新自治体の危機ととりちがえて現体制擁護のために革新支持の労働者住民の決起を煽う点で、保守知事

している。「人を食った態度だ」と何回か検事は薄怒した。そして彼に工作されたとして起訴されている被告たちを「面識がない」「関係がない」と積極的に弁護をしている。白君の法廷闘争と救援運動には確かにズレがあった。日本に永住権を持つ在日韓国人で死刑が確定している神智教（エ・チュルギョ）氏の救援運動がいま精力的に進められているが、彼の場合は法廷で「同一民族なのに北へ行って阿敬恵のかゝる」と風

印刷引き

受けます

風林舎印刷部

TEL 〇四二五・  
二三・五四二九

以上に反動的性格を帯びざるをえない。釜ヶ崎、寿町、山谷の「寄場始末」がいずれも革新知事や市長の手で行われていること、「公務労働聖職論」で値上げも合理化も認めてしまう共産党の存在がそれを端的に示している。

「進行する不況と自治体財政危機の深まりの中で、何が一本当の革新なのか、誰が労働者人民の本当の利益を守るのかが散しく問われている」と都職のCさんは語っている。

「それからだった。母国語をずかぬ方月で独学するというエドワードを残している。」(関西医大新聞十一月一日付より)

彼は大学を卒業すると韓国青年会議長事務局長として、在日韓

# に学ぶ

## 2事件

國人の地位向上をめざして活動した。府の役人に対して公営住宅入居制限を止めるよう働きかけた。日本社会の厳しい民族差別のな

轉換せまられる救援運動

死に直面し権力と闘う

## 11・22事件

白君の生き方に学ぶ

転換せまられる救援運動

死に直面し権力と闘う

11・22

11・22事件で裁判をうけていた 死と対決しながら暮すベク君を思ふ 日本にいたということを証明するに実害はなかったが、このような判決はスバイの事実はなく国家に実害はなかったが、このような判決はスバイの事実はなく国家

グ・オクワン（白玉光）君は、悲しみにやつれた母親を、始め肉親を思ひ、救援運動關係者は重い課題を背負つて前進してゐる。白玉光氏を救う大阪の会（大阪）は、近畿思想を抱くことが許されないと死を宣告している。稲葉法相（当時）は「内政干渉になるから」と、白君のような在日韓國人は日本の

「白君は『北』へいったという事を法廷でみとめてきた。拷問に屈したことは否定できないが、彼は朴正熙に屈服して生命乞いをしてゐるのではなかった。彼は渡韓しただけで済んだ。彼は韓に命に突落した権力者に対して闘い抜く白君の生き方は必ず日本人にもわかつてもらえるはずだし、共に支那者にとても好ましくなく、

くことが目々救済会を始め救た」という。

運動關係者に要求されている。ソールの凍りついた拘置所のないという困難な情況のなかで、白君が「北へいったとされる日に廷では冷靜に検事と裁判官と対応、動に忙しいA君は語った。

て傍聴にかけた友人をみつけれ感しもらえんと思ふ。これがわては「ありがとう」と書をかけるわれわれのしなければならぬ事だと思ふ」と、白君の死刑阻止の運

餅のような団結を

ビルの谷間に赤旗と歓声

【大阪】商都大阪のどまんなかに、親会社の三業事務機へ転職という理不尽な暴挙に出た。かねて年末のあわただしい人の往々、議におしかけ、ガードマンや社員の暴行いやがらせと闘いながら、域の支援をえて闘いつづけて、旗がなびき、赤ハチまきの労働者に六百日をこえるすわり込

者のデモと力強い喚声かひびきわたった。爭議支部の完全勝利にむけて餅のように団結し粘強く闘かおると、全国金属南大阪グラマーを三菱事務機の指示でユザーの註文に応じて送り込みでいた。三菱事務機は企業きあげられた。

こなわれた。(写真上)  
永和ビルの上階には三設事務  
機があるが、五十二年四月に全員  
解雇された企業計算センター支  
と社長は行方をくらまし全員解  
つきての餅をはおぼりな  
ら、争議支部を先頭に来年も  
い閉結で闘い抜くぞと誓い合





大阪T生

たたかいの  
なかから

雑等本町二ノ千七 電二三  
 ノ十三ノ五伊奈ビル 電四二三  
 鍋場二ノ四ノ五 電四六七九  
 宿区西谷一ノ四野原ビル 電三〇三  
 神保町三ノ十五 電二六五九  
 ノ八十一 電三五二一三六六八  
 南一ノ二十二ノ四 電四六三

ておめで  
ざいます

柔南九  
二〇四 電三二三六七六  
九ノ十六仙台駅前ビル 電二  
九  
田神保町一ノ十五 電二九四  
町神田神保町一ノ五三 電二九

ル 電四二四一  
水西側 電二三  
町三〇七 電七七  
ノ四 電五七丁  
三六一六七二  
部 大阪市旭区  
九五四一六三九六  
住吉区杉本町大阪  
一二三二内線  
市灘区六甲台町  
四七一三二八  
電五三三六八五  
取扱書店

パートと本工が手握って

同組合書綴部 大阪市旭区  
二一 電話九五四一六三九六  
合 大阪市住吉区杉本町大阪  
電六九二一二三三内線  
籍部 神戸市灘区六甲台町

# 日本資本主義と 対決する運動労働

同組合書籍部 大阪市旭区  
二二一 電話九五四一六三九六  
合 大阪市住吉区杉本町大阪  
電六九二一二三三三內線  
籍部 神戶市灘区六甲台町  
一二二內線  
通一一七 電四七一二一八  
二四四六 電五三三六八五  
人民新聞取扱書店

五 王寺区茶臼山町三ノ七 電七七  
夕屈町一ノ一四 電五七二丁

丸通令出川下ル 電四二四一  
丸通令出川下ル 電四二四一  
丸通令出川下ル 電四二四一

〇三  
神保町三ノ十五 電二六五十九  
ノ八十一 電三五二一三六六八  
神南二ノ二一ノ四 電四六三

ノ十三ノ五伊奈ビル 電四一三  
駒場二ノ四ノ五 電四六七一九

神田神保町一ノ十五 電二九四  
町神田神保町一ノ五三 電二九

二ノ四 電話三二三六七八

ておめで

# 大義、捨て体制維持

## 胎動するアラブ革命 (1)

### 大衆との結合に恐怖する支配層

#### 聞け77年を創る人民の足音

帝國主義の世界支配は崩れ始めている。あらゆる地域で、歴史の歯車は一枚一枚、皮をむくように資本主義の支配を剥き、虚構を白日の下にさらしている。その奥底から、人民の足音が確かに響いて来る。自らの手で自らの生活を、歴史を創り出す人民の闘いは、止絶えることなく、休むことなく続けられている。

「闘い」。又一步、その言葉の重みが増し、広がり、はね返っている。

今回から「聞け77年をつくる人民の足音」と題して、世界の闘いをさまざまな角度から伝えて行く。

編集部 昨年の夏からレバノン、シリア、パレスチナ解放戦争が、現在では、その連帯という時その内容が示シテ、解決の方向がみえて来たと言われている。パレスチナ解放戦争がその中でどのように進行して来たのか、中東における「革命」という視点からすれば、今回のレバノン内戦はどのような意味を持つのか、といった本質的な問題については、あまり明確に展開を促してお話しを伺うことにしました。

座談会出席者  
北沢正雄 中東問題研究家  
宮嶋信夫 石油問題研究家  
広河隆一 フォトジャーナリスト  
北川 明 三多摩パレスチナ研究会

レバノン内戦がどのような意味を持つていたのか、というところから、北沢さんの方に問題提起をお願いできますか。

北沢 問題提起ということでは、今度のシリア内戦の中で、パレスチナは追いつめられた、非常に苦しい立場に立たされた。それとどうした状況を抱えて、「だからこれで中東和平が進行する」という一般的な風潮が出来上がっている。更に、世界的な不況からの脱出が不可能なという、先進諸国の経済の根本から起って来ている問題、これをどうしようも出来ないでいる、というのがこの年末の状況だと思える。



イスラエル政府の土地没収に抗議する占領地アラブの集会



小さな腕で勝利のサインをつくる南ア共和国の黒人居住区、ソエトの子供達

## 歴史は進む ☆ ☆ 人民の炎の中で ☆ ☆

一方、シリアの介入というのは、よってつまずく、その中で理想主義的にアラブの統一を叫んでも、アラブの経済、階級の問題、中東和平に際しては強硬派だといふのは和平の条件に関する問題です。パレスチナをダシに、交渉を有利に進めようというものだから、石油のとりなしで、すぐ話しはついてしまう。その意味で、昨年の夏、サウジアラビアの国王ハッサンのシリアを訪問したことの意味は大きい。

パレスチナ解放戦争の主眼の問題から言えば、アルファタなんてのは討論のテーマにならない。どこの国の闘いにもあつた勢力は生れるもの、むしろ PFLP や PDP といったアラブ革命を問題として来た左派勢力が問われている。PFLP にしても PDP にしても、ANM (アラブ民族主義者同盟) から生れたものだ。この ANM というのは、第一次パレスチナ戦争以降、アラブの統一を前面に掲げて運動して来た組織で、ナセルにつながる運動だといえる。これが一九六一年にエジプト、シリアの分裂によって消滅した。

最近、OPEC 総会の直前に PLO はこれまでのシリアのレバノンへの軍事介入を撤回し、シリアに屈伏する態度を表明した。これでパレスチナの再編は急速に進行するだろう。そして、OPEC の分裂は、第三世界政権の持つべき階級性格が、第三世界の人民の側から問われる時代が近づいてくることを示している。

が、パレスチナ解放戦争より、レバノン内戦における階級闘争の高揚を防止するという立場に移行したといふことだ。これを補強するカタチでシリアが介入してくる。つまり、「アラブの大義」というものが、アラブ各国の階級対立の激化の中で、いわば副次的な課題となってきた。

更に、こうしたシリアの政治選択を受けたもの、その前にさかのぼれば、やはりエジプトのイスラエルとの単独和平という政治選択を支えたものが、米の対中東政策に沿った、サウジを中心とした産油国の経済援助に現れている。

タイ・クーデター報告集会開く

十二月十三日、大阪労働会館の会議室で関西労働者安全センター・労災職業病海外輸出調査会・日タイ青年友好運動関西の共催で、タイクーデター報告集会が開かれた。全関西、大阪市の労働者を中心に、約六十名の労働者、学生、市民が参加して、タイ・クーデターの背景を鋭く、井上隆夫氏(日・タイ青年友好運動)の講演に聞き入り、タノム前独裁者の帰国を直撃のきっかけとしたタイ軍部による反革命クーデターは、七三年十月のタイ学生革命以降のタイ人民の闘いを抹殺しようとする、国、軍、仏教界に結集した最後の手段であった。講演に先だって上映された、タイ、ハラジーン工場の子労働者による工場占拠、自主管理闘争の記録映画は、タイ支那関係が、クーデターという非常手段をとるにまで追い詰められていた情勢を的確に語ってくれた。

そして、軍の追及を逃れた労働者、学生、農民達は、農村からジャングルから、人民戦線の形成を宣言し、闘いは決して絶えることなく続けられている。その緊張感が参加者の心を強くこらえていた。